

鉄道のまち -美濃太田駅開業100年- 文化の森 ☎28-1110

今年で美濃太田駅は開業100年。「鉄道のまち」の歴史の一部を紹介していきます。



1921-2021

③ 観光の拠点に

大正10（1921）年に美濃太田駅が開業し、その3年後に新設された駅前通りを中心に商店が増え、近郊からも買い物や娯楽のために多くの人々が訪れるようになります。

昭和30年に入るとレジャーブームが到来し、遠方からの観光客が急増。人気のあった日本ライン下りは、昭和39年に犬山から下呂までが「飛騨・木曽川国定公園」に指定されて更に注目されました。昭和40年には、中之島乗船センターが開業し、多くの観光客を迎え入れることになります。美濃太田駅からライン下り乗り場まで観光客送迎用のバスが往復し、駅前には観光客であふれました。昭和41年から岐阜一下呂間を臨時準急列車「ライン」が運行されました。昭和40年の岐阜国体では、美濃加茂市はレスリングの会場となり、次々と美濃太田駅に到着する選手団と、出迎える市民が

ランティアで駅前広場が埋め尽くされました。駅前通りも旅館へ移動する選手団の列ができるほどでした。



▲美濃太田駅前の商店街（昭和47年）



▲国体時の美濃太田駅の出迎え風景（昭和40年）

文化の森企画展「鉄道のまち」展
（12月18日～3月6日）を開催
美濃太田駅や鉄道に関する写真や
情報を文化の森までお寄せください。